

ユニセフ兵庫ニュース

Wish

世界の子どもたちのために

vol. **62**
2020年9月号



©UNICEF/UNI325634/Frank Dejongh

ユニセフと連携し正しい手の洗い方を指導する U-Reporter の若者（コートジボワール）

CONTENTS

- | | |
|--|---|
| <p>2 新型コロナウイルス感染症への
ユニセフの取り組み</p> <p>3-5 EVENT REPORT
こんな時だからこそオンラインセミナー</p> | <p>6 活動ファイル 2020年5月～8月</p> <p>7 竹本さんが伝えたかったこと</p> <p>8 お知らせ</p> |
|--|---|

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への ユニセフの取り組み

5月28日、ユニセフは関係機関とともに、
新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、本年末までに
貧困層の子どもが8,600万人増加する恐れがあることを発表しました。



スラムに設置された手洗い場 (ケニア)

家庭への支援

パンデミックは、世界中を巻き込む前例のない社会・経済危機を引き起こしています。家庭では、保護者の収入が失われることで、食料などの購入、医療や教育を受けることも難しくなり、経済的な困難による児童労働や児童婚、暴力、虐待のリスクが高まっています。ユニセフがこれまで取り組んできた子どもの貧困削減や5歳未満児の死亡率の減少は、後戻りの可能性すら出てきました。

緊急対策として、現金給付、学校給食、児童手当など迅速で大規模な家庭への支援を呼びかけており、取り組みも始まっています。

南アフリカでは子ども1,280万人を対象とする児童手当などの社会的保護制度の強化、ジョージアでは子どもが3人以上いる21,000世帯を対象に月額100ジョージアラリ(31米ドル)を6か月間追加で支給するなど、多くの国が社会的保護プログラムを拡大して

います。

すべての人が手や指を衛生的に保てるように

ユニセフはWHOと共同で、6月26日、手指衛生をすべての人に届けるための新たな取り組みを始めました。

新型コロナウイルス感染症予防のために世界中の人々に「石けんときれいな水で頻りに手を洗いましょう」というメッセージを発信しており、これは感染拡大を防ぐために、安価で簡単に実施できる最も重要な方法の一つです。

最新のデータによると、後発開発途上国の大部分の人々は、手洗い場の設備が不足しているため高い感染リスクにさらされています。最もリスクの高い60か国では、3人中2人(計10億人)が、自宅に石けんと水を備えた基本的な

手洗い場がありません。

ユニセフは、世界中の政府や企業と協力し、子どもたちや家族が安全な水、手洗い場、手洗い石けん、トイレを利用できるように支援を続けています。

アフガニスタンでは、村々を回る移動図書館を活用して、新型コロナウイルス感染症の啓発と手洗いの促進を目指すキャンペーンを展開。支援ネットワークを通じて、最も弱い立場に置かれている家族を対象に計84トン以上の石けんを、コミュニティへは安全な水を届け、ヘラート地域病院に水タンクと水フィルターを設置しました。

ユニセフとともにさまざまな形での調査や啓発などの活動をしている「U-Reporter」の若者たちは、コートジボワールで新型コロナウイルスから身を守るための正しい手洗いについて啓発活動を行っています。

緊急時の輸送システムの重要性

ユニセフは、これまで航空機により人道支援従事者や物資を輸送してきました。ユニセフの物資には、パンデミックの最中であっても、各国が重要な保健・医療サービスを継続できるように、ワクチンや医療機器、その他の保健用品が含まれています。



タマレ市に配布予定の手洗い施設とユニセフの検査官 (ガーナ)

こんな時だからこそ

オンラインセミナー

新型コロナウイルス感染症の被害が世界中に及ぶ中、兵庫県ユニセフ協会でも、ユニセフのつどいをはじめ多くの主催・共催イベントが中止や延期になりました。そこで取り組んだのがオンラインでのセミナーの開催です。新たな試みとして始めたオンラインセミナーには、国内外からの参加があり、その可能性が広がりました。

って上手に発散するストレスマネジメントがより重要になります。コロナとの戦いは自分との戦いです。

共存を目指して

通常ウイルスは、人の体に適応して症状が穏やかになっていきます。これを馴化^{じゆんか}と言います。流行の初期は無茶苦茶しますが、様子が分かると無茶は減ってきます。宿主を殺してしまうと、ウイルス自身の住み家もなくなるからです。人類との共存へと進みます。生き残るための賢い選択です。

人類もお互いに、社会でも世界でも折り合いがつかない相手に自分の正義を振りかざすのではなく共存を考えてはどうでしょうか。国際協力の最終目標もそこにあると桑山さんは話を締めくくりました。

世界の感染状況

新型コロナウイルス感染症は、世界中で大流行しましたが、桑山さんが医療活動をしているパレスチナ自治区ガザや東ティモールでは感染者が少ないそうです。ガザは30年前からロックダウン状態で、基本的に他国との交流が少ないのです。

世界の多くで人の交流を一時的に制限しましたが、経済面の理由で交流を再開しつつあります。ウイルスに国境はなく危機は終わっていません。

心への影響

ウイルスは目に見えず、治療法も確立していないことから、不安や恐怖を引き起こします。

実際に感染していないのに心が反応し、コロナのような症状が出ることを心理感染と言います。

また、マスクをしていない人を見かけた時など、自己防衛本能が働

き自分の「正義」が暴走し、嫌悪・偏見・差別を引き起こします。これを社会感染と言います。

学校・家庭で何が起きている？ 職場・地域はどう変わった？

子どもたちは、コロナは怖いものと教えられ外出することもまなりませんでした。

今、教育を正常化するため学校は再開しましたが、感染予防のため三密を避けるなど、コミュニケーションがとりづらい状態にあります。「大丈夫」という言葉をかけながら子どもたちの話を聞き、成長を後押しする必要があります。

親も、リモートワークや子どもたちが24時間一緒にいるなど家庭環境の変化から大きなストレスを経験しています。職場や地域でも弱音をはけないことがあります。誰もが自分の弱さやもろさを知り、自分のストレスの限界を知

オンラインでつながろう

「ドクトル桑山と考える コロナ時代の心のケア」

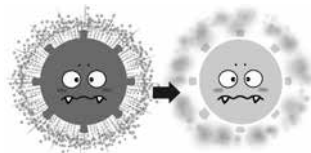
セミナーでは「新コロ君」という名の新型コロナウイルスを擬人化したイラストを使い怖いイメージを和らげ、コロナ時代の心のケア、心の健康についてお話しいただきました。



桑山 紀彦さん

精神科医、心療内科医、医学博士、NPO法人地球のステージ代表理事。

▼新コロ君（提供 地球のステージ）



Data イベントデータ

- 日時/テーマ/参加者
- ① 5/30(土) 学校ではなにが起きている? (25人)
 - ② 6/2(火) 家庭では何が変わった? (23人)
 - ③ 6/6(土) 職場は、地域はどう変わった? (46人)
- 講師 桑山紀彦さん



子どもの権利の保障

これまでの流れ

子どもの権利の保障を求める動きは1920年代前後に世界各地で出てきました。これを受けて最初の国際文書「ジュネーブ子どもの権利宣言」が国際連盟総会で採択され、戦後「子どもの権利条約」と3つの選択議定書が国際連合総会で採択されています。

子どもの権利条約は生存・発達・保護・参加などの権利を定めていますが、環境と防災に関する子どもの権利の保障は不十分だと以前から言われていました。2011年に起きた東日本大震災はその重要性が再認識されるきっかけとなりました。

ユニセフはセーブ・ザ・チルドレンといったNGOなどと共にChildren in a Changing Climate (CCC)*1という国際的なネットワークを設立し、21か国600人以上の子どもたちの意見をもとに、「防災に関する子ども憲章」*2をつくりました。子どもを主体とした防災への取り組みを啓発するこの憲章は、今では世界各地の防災事業にも反映されています。

環境と人権

地球温暖化や公害、自然災害など環境の変化は脆弱な所に集中的に影響を与え、それはすべての人が健康で清潔で安全な生活を送る権利を脅かします。また環境悪化による被害に対して、意見を述べ救済を求めることは誰もが持っている権利です。2018年国連人権理事会で採択された「環境と人権に関する枠組み原則」にあるように、こうした人権を保障するためには良い環境が必要であり、良い環境を保つためには人権の尊重が必要なのです。環境と人権が相互に関連しているという考え方は、将来の世代へより良い地球を引き継ぐことを目指すSDGs(持続可能な開発目標)に反映されています。

子どもの権利と環境・防災

2019年9月、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさんを含む12か国15人の子どもたちが国連子どもの権利委員会へ「気候変動対策に消極的な5か国は、環境悪化の脅威にさらされやすい子どもの権利を侵害している」という救済申し立てを行いました。



子どもの権利委員会への申し立てを発表するグレタさんたち

ここで大切なのは、子どもたちには健康な環境に生きるという権利に加え、環境に対する正確な情報にアクセスし考え方を学ぶ機会を得る権利があり、自分たちの意見を表明する権利があるということです。ユニセフはこの申し立てにあたり全面的なサポートをしました。昨年からはまった新しい動きとして、ユニセフや国連環境計画(UNEP)、各国のNGOなどによるグローバルキャンペーンChildren's Environmental Rights Initiative(CERI)*3があります。ここでは世界各地の若者の環境活動を支援・紹介し、子どもや若者の参加を呼びかけて、広く意見を集めています。今後それらの意見を宣言の形にして発表し、新しい第4番目の選択議定書「環境に対する子どもの権利を保障する子

どもの権利条約選択議定書」の実現につなげていこうとしています。

「今の世代は次の世代に何を残せるのでしょうか」

セミナーの参加者には、環境や人権という言葉のあいまいさを難しく感じている人や、普段は特に意識していないことを自分の所まで引き寄せて考え、少し行動を変えようと思った人がいました。先の質問に答えるためにまず私たちがすべきことは、今ある問題を知って、自ら問いを発し、情報を集めて判断すること、グローバルな活動団体や議論の場所へ意見を発信する力を持つこと、問題解決のために共に助け合いながら行動していくこと。このようなことを学んだセミナーでした。



森田 明彦さん

日本ユニセフ協会広報室長、コロンビア大学人権研究所客員研究員などを歴任。現在は尚絅学院大学名誉教授。

年表

1924	賀川豊彦 6つの子どもの権利を公表「ジュネーブ子どもの権利宣言」国際連盟総会採択
1959	「子どもの権利宣言」国際連合(以下国連)総会採択
1989	「子どもの権利条約」国連総会採択
2000	「子どもの売買、子ども買春および子どもポルノグラフィティーに関する選択議定書」、「武力紛争への子どもへの関与に関する選択議定書」国連総会採択
2011	「防災に関する子ども憲章」第3回防災グローバル・プラットフォームにおいて発表「個人通報手続きに関する選択議定書」国連総会採択

- *1 www.childreninachangingclimate.org/
- *2 <https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/1108/1365670716844.pdf>
- *3 <https://www.childreenvironment.org/home>

東日本大震災を通して環境・防災に対する子どもの権利を保障する必要性を感じ、さまざまな国際会議でそれを語ってこられた森田さんから、世界の今の流れについて聴くセミナーを開催しました。

「環境に対する子どもの権利」を保障する子どもの権利条約新議定書

2020 ユニセフセミナー



Data イベントデータ

日時 2020年5月16日(土)
講師 森田明彦さん(元日本ユニセフ協会広報室長)
参加者 43人



拉致された少数宗教ヤズディ教徒の子どもたち



第1部 報告

ISは終わったのか?取材映像から知るシリア北部の女性や子どもたちの現状 (玉本英子さん)

シリアでは、2011年アサド独裁政権に対し反政府運動が起き、その内戦状態の中で過激派組織イスラム国(IS)が台頭。ISはイスラム教を都合のいいように解釈し、暴挙を働きました。一方世界に向けては宣伝映像をインターネットで発信し、世界中から多くの若者がISに入りました。有志連合などによりISが制圧された後の2018年、2019年に玉本さんは現地に入り、戦闘員訓練所に入れられた少年やISに処刑された人たちの遺骨収集の様子などを取材しました。「ISのイスラムと一般のイスラムを一緒にしないでください。シリアのことを遠い国のことと思わないでほしい。戦後75年になりますが、ナチスドイツや日本でも国が子どもを戦争に動員したのです。戦争が終わっても、今も人々は苦しんでいます。大事なのは、世界で何が起きているのか、どう関係しているのかを自分で知っていくこと」と、玉本さんは訴えました。

アフガニスタン23年の活動を振り返って (西垣敬子さん)

西垣さんは、仏教に感心があり、仏教国だったアフガニスタンに興味を持っていました。1994年その国内に内戦が勃発。

赤ちゃんが死にかけていて、ミルクも薬もない。なんとかしなければと走り出したのが活動の始まりでした。この年11月初めてアフガニスタンに行き、国内避難民キャンプを訪問しましたがすでに手遅れでした。そこで子どもたちの青空教室を見て、持参したミルク代で学校用の大きな TENT や文具などを贈りました。今のアフガニスタンはイスラム教の国です。女性の仕事はとても限られています。キャンプの女性のために洋裁教室を開設したり、女子の教育が禁止されたタリバン政権時には教師への給料支援もしました。政権崩壊後は女の子も学校に戻ってきたので、女子用トイレや女子寮などを大学に贈りました。現在では日本でヘラート大学の女子学生が描くアフガニスタンの細密画を広める活動を続けています。

第2部 対談

シリア・アフガニスタン・日本 戦争は人々に何をもたらすのか

幼い頃戦争を経験された西垣さんに玉本さんが問いかける形で進められました。戦後75年の今、戦争の本質について考える時間になりました。

玉本さん(以下、玉) 台湾での戦時中の話を聞かせてください。
西垣さん(以下、西) 私は1935年生まれの台北育ちです。当時台湾は日本の植民地で

した。戦争がひどくなると、家族、親戚と一緒に祖父の山の家に疎開し、10歳の時にそこで終戦を迎えました。雑音のするラジオを聞き、負けたというよりも終わったと思いました。

玉 日本への帰国はどうでしたか。
西 戦争に負けて日本人は帰らなければいけないということで、翌年日本政府の用意した引き揚げ船が台北の北の港にきました。持ち出せたのは一人千円と両手に持てるだけの荷物。父母妹と船に乗りました。何千人が船底に詰め込まれ、3日後着いた佐世保では、シラミ駆除薬 DDT を頭からかけられ、屈辱感を覚えました。それから親戚を頼って大阪に行きました。今思えば難民と同じですね。

玉 私の場合は帰ってくる場所があって、現地に行き取材しています。しかし、西垣さんは多感な頃に逃げることのできない戦争の体験をされています。最後に戦争について一言お願いします。
西 気づくとある日突然戦争になっている。常に何が行われているかを知り、いかに平和が大事かということを知ってほしい。誰も望んでいないのになぜか戦争になってしまう。そのなぜかを考え、行動し、そして1歩踏み出す。この踏み出す勇気がとても大切だと思います。

Data イベントデータ

日時	2020年7月4日(土)
講師	玉本英子さん 西垣敬子さん
参加者	74人
共催	コープこうべ第2地区本部
協力	あしや市民活動センター(リードあしや)

2020 国際理解講座 ③

戦争の現場から 見えて来たもの

シリアやアフガニスタンの女性や子どもたち



玉本 英子さん

ジャーナリスト、アジアプレス所属。
シリアを中心に紛争地の中の市民を視点に20年以上にわたって取材。



西垣 敬子さん

宝塚アフガニスタン友好協会代表。
23年間で42回アフガニスタンに渡航し、女性や子どもたちを支援。



Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
2020年5月～8月

活動一覧

Activities List

学習会一覧

★来所

月日	訪問先	対象	人数
8月19日	兵庫県立姫路商業高等学校	3年	4 ★

地域活動一覧

月日	イベント名
5月14日	サー口節子さん講演会(中止)
5月16日	2020ユニセフセミナー(オンライン)
5月30日・ 6月2日・6日	オンラインでつながろう(オンライン)
6月20日	2020国際理解講座②(延期)
6月27日	ベナン報告会①
7月 4日	2020国際理解講座③(オンライン)
7月25日	ベナン報告会②(オンライン)
8月 8日	水の教室(中止)
8月 8日	竹本さんからのメッセージを受けとめる会(オンライン)

※インターン受入

7月6-10日 The American School Foundation, Mexico City 高校2年生

募金一覧

2020年3月～6月

学校・団体名
神戸市外国語大学国際法末吉ゼミ、(公財)神戸新聞厚生事業団、(株)産業経済新聞社(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

ご協力ありがとうございました。

Intern's Voice



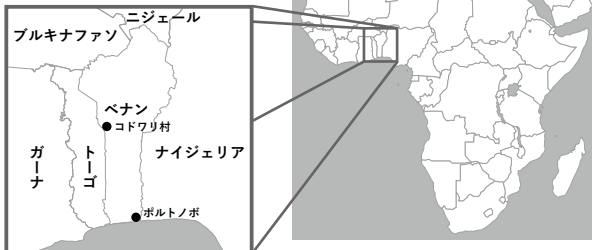
インターンに参加して

ユニセフの基礎や活動に加え、多くの方の話を聞くことができました。さまざまなアイデアにつながり、自分が何ができるのか深く考えるきっかけになり、世界で今起きている事を学ぶことが非常に重要だと感じました。何が起きているのか知らないと、最適な行動がとれないと思います。以前から問題意識のあった難民問題をより深く知りたいと思い、どのような人がどのように行動し影響を与えているのかを勉強し、高校生の私にできることを探していきたいです。また、インターンに参加する前まで漠然としか考えていなかった国連や国際機関での仕事を、強く意識するようになりました。将来、国際機関で働けるよう努力したいと思います。世界で活躍されている方と触れ合うことができ、大変貴重な経験でした。(春山菜々見)

1 ベナン共和国 × 青年海外協力隊 派遣報告会①ー生活篇ー

日時 6月27日(土)
会場 コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)
報告者 福井沙織さん
参加者 19人

ベナン共和国
Republic of Benin



神戸市出身の福井さんは、大学生の時から兵庫県ユニセフ協会の活動に参加し、学生ボランティアグループ「ユニーズ」の中心メンバーとして活躍。石けんや消毒剤などのメーカーに就職後は、高校時代からの国際協力への関心に加えて保健衛生にも関心を持つようになり、2017年青年海外協力隊に応募。選考や研修の期間を経て、2018年7月からベナン共和国で地域住民の生活を支援するコミュニティ開発隊員として活動してきました。今年3月に帰国した福井さんに派遣された村での日常生活について話を聞きました。

派遣地は中西部にあるイスラム教・アニ族のコードワリ村。統計上の人口は4000人ですが、出稼ぎに行っている人も多いようです。生活は自給自足に近く、主食のトウモロコシは乾燥させた粒を粉にしてから練ってパットという食べ物にします。他にイニヤム(ヤムイモ)、米、大豆、綿などを栽培し、作物の一部は現金収入源にもなっています。農作業はほとんど機械化されておらず、人手と時間をかけてしていました。子どもたちはよく家の手伝いをし、水や電気は十分に使えない中でも工夫しながら皆で協力して生活していました。

福井さんがベナンに住んで感じたことは、インフラが整っている日本の生活が当たり前ではないということ、自分の思い通りにならない時どう判断するかが大事、世界を知ることでお互いを認め合える、ということでした。現地での活動内容についての報告会も後日行われました。

竹本さんが伝えなかったこと

私自身の「ことば」「こころ」で 平和を語る

竹本成徳兵庫県ユニセフ協会前会長が4月に亡くなりました。享年88歳でした。

協会設立時から12年間会長として、その後は顧問として、協会の成長を温かく大きく支えてくださいました。また、長年生協活動に携わり、平和とより良い生活を目指す生協運動の先頭に立ってこられました。

そんな竹本さんは「私は2度の地獄を見た」という言葉をよく口にされていました。一つ目は1945年8月6日の広島での被爆。その時20歳のお姉さんを亡くされました。被爆直後から自宅に帰るまでの出来事、被爆した娘を探し連れ帰ったお父さん、亡くなるまでのお姉さんの姿をつづった、著書「最後のトマト」は、ヒロシマのあの日を子どもたちに語り継がなければという思いから、やさしい文章で漢字にはルビがふられています。二つ目は1995年1月17日、阪神淡路大震災です。当時コープこうべ理事長だった竹本さんは、被災者の心に寄り添いながら復旧の陣頭指揮を執られました。

神戸での惨状はかつて広島で目にされた地獄絵と重なり、自分の被爆体験を語ることが平和へつなげると、兵庫県ユニセフ協会会長に就任後もなお150回以上にも及ぶ各地での講演会や、「竹本会長と歩く広島ピースウォーク」など、積極的に活動されました。設立5周年の2006年にはボランティアと一緒にユニセフスタディツアーでタンザニアを訪問。これは世界の今を知る国際理解講座へとつながっています。知ったことを誰かに伝える、その小さな積み重ねが平和へつながっていきます。

8月8日には、兵庫県ユニセフ協会主催、コープこうべ協力で「竹本さんからのメッセージを受けとめる会」がオンラインで開催され、懐かしい映像とともに、竹本さんとの思い出や今も心の中で生き続けている竹本さんの言葉を参加者が語りました。「平和の原点は、人の痛みがわかる心をもつこと」「人間の尊厳を奪う核兵器は絶対



兵庫県ユニセフ協会前会長
しげのり
竹本成徳さん

1931年広島市生まれ。1945年修道中学校2年生のとき爆心地から1kmの広島市役所にて原子爆弾に被爆、奇跡的に一命をとりとめる。その後、修道高等学校を経て、1954年同志社大学法学部卒業。1957年神戸生活協同組合（現コープこうべ）に入る。1993年から2001年までは理事長を務め、また1993年から2003年まで日本生活協同組合連合会会長も務める。2003年勲二等瑞宝章受章。

に人類とは共存できない」「憎しみではなく、^{ゆる}怒すことの先にしか人類の平和はない」など。

竹本さんから私たちに残されたたくさんの心に響くメッセージ。胸に刻み、語り継ぐと、思いを新たにしています。

追悼

黒木 稔（兵庫県ユニセフ協会会長）



竹本さんは、私にとって生協運動の大先輩であり、恩人でもあります。私がコープこうべの職員向け内報『にじの友』の担当だったときに、常勤役員を紹介する企画で初めて直接お話を聞く機会がありました。当時、竹本さんは42歳。最年少の理事（常務）でした。

そのときの竹本さんの元気あふれるお顔はいまも目に焼き付いています。被爆者でもある竹本さんのお話は多くの方が耳にされていると思います。ここでは私が執筆した記事（抜粋）をご紹介します、若かりし頃の竹本さんのお姿を思い浮かべながらご冥福を祈りたいと思います。

……「ぼくは被爆者なんだ。すぐ上の姉を、原爆で失ってもしるんだよ」肉親を奪った戦争を憎む。と同時に、被爆しながらも助かった自分の命を何かに役立てたい欲望が血となって、体の中をめぐる始めた。そして、その血は、大学時代に手にした一冊の本によって火をつけられ、大きな胸のうずきとなって燃え上る。「運動をしただけじゃあかん。何かやらんと……」「きけわだつみのこえ」というその本には、特攻隊として死地におもむく少年の生の叫びが記録してあった。「戦地に飛びたつ寸前まで、愛を語り、人生を語っている。すばらしいよ」燃え上った血は、生協運動へと駆り立てた。母校、同志社大学の生協の理事として、経営の苦しい中を奮戦した。97名の従業員に、給料が払えなかったこともある。「ぼくは、従業員の家を一軒一軒説明して回った」しかし、病気で寝ている、従業員の母親の手を握って何とおわびをいっただろうか——今、六千人の従業員を擁する大生協の、最年少理事である。その理事のひとりとして「二度とあんな経験を、生協の従業員に味わわせたくない」といった。……



ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
新型コロナ ウイルス	コロナ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*手数料免除

モバイルユニセフ・ クレジットカード募金

モバイルユニセフのクレジット
カード募金ならいつでもどこ
でも、気軽に募金ができます。



<https://www.unicef.or.jp/mb/bokin.html>

Wish^{vol.62}

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2020年9月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

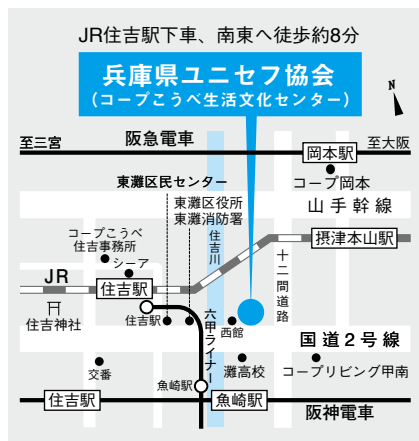
<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

2020 国際理解講座② オンライン開催 公演「地球のステージ」

日時 10月10日(土) 13:00 ~ 15:30

案内人 桑山紀彦さん

主催 JICA関西、(公財)兵庫県国際交流協会、JICA海外ボランティアひょうご応援団、兵庫県ユニセフ協会

定員 250人(先着順)

申込み 10月7日(水) 締め切り

第I部 公演「地球のステージ」 (YouTube LIVE)

13:00-14:15

今回は世界の紛争、環境問題、人の生き方、感染症などについてお届けします。

第II部 トーク交流会 (Zoom)

14:30-15:30

テーマ「With コロナの国際協力」

桑山紀彦さん



精神科医、心療内科医、医学博士、NPO法人地球のステージ代表理事。1996年より世界の紛争地や被災地で医療支援活動や心理社会的ケアを行ない、それらの体験を自ら制作した映像と音楽でつづる「地球のステージ」を全国で公演。

各日程は変更になることがあります。
詳細はHP(ホームページ)をご覧ください。

参加費
無料

2020 国際理解講座④ オンライン開催 「コロナ後の世界を生きる」

日時 11月14日(土) 13:30 ~ 15:30

講師 大津司郎さん、甲斐信好さん、
早川千晶さん

Zoomを使用し、アフリカに関わりの深い講師の方々の「世界の今」を皆さんと一緒に考えます。

大津司郎さん



ジャーナリスト。40年以上にわたる豊富なアフリカ取材歴をもつ。野生世界と時事問題の両面からアフリカを追求し続けている。

甲斐信好さん



拓殖大学国際学部教授。長年、ゼミ生を連れてケニアやルワンダへのアフリカスタディーツアーを行なう。生きることの大変さを教育の中で教えている。

早川千晶さん



ケニアのナイロビ最大級のキベラスラムでマゴンスクールを、海岸地方ミリティー二村で子どもの家を運営。スラムで暮らす子どもたちの支援活動を続けている。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

参加申込みはホームページ上の
申込みフォームで受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

Volunteer

ボランティア募集中

兵庫県ユニセフ協会は、世界の子どもたちが一人でも多く笑顔になるように、一人でも多くの方に世界の子どもたちのことを知っていただけるように、イベント・講演会・

学習会・募金活動などを行っています。活動のモットーは「できる人ができる時にできることを」。参加のきっかけはさまざま。平日でも土日だけでも、それぞれの都合に合わせて参加できます。一緒にボランティアしてみませんか。

ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。
オンラインでの開催も可能です。
お気軽にお問い合わせください。



ユニセフ ひょうご サポーター

賛助会員募集中

賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支援してください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。